

婦人科腫瘍委員会

委員長 片 瀨 秀 隆

副委員長 榎 本 隆 之

委員 井筒 一彦, 牛島 公生, 齋藤 俊章, 杉山 徹, 鈴木 直,
田代 浩徳, 永瀬 智, 万代 昌紀, 三上 幹男, 宮本 新吾

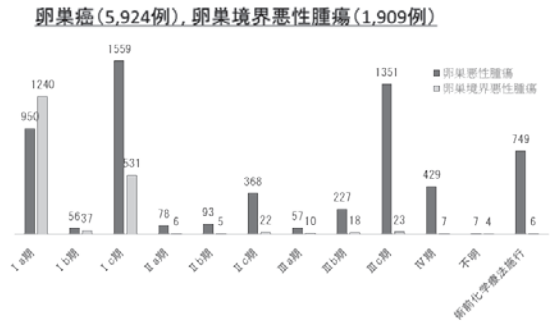
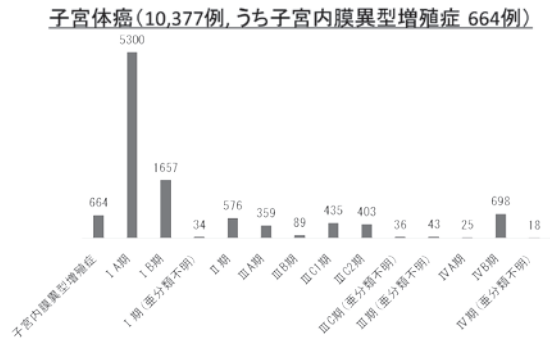
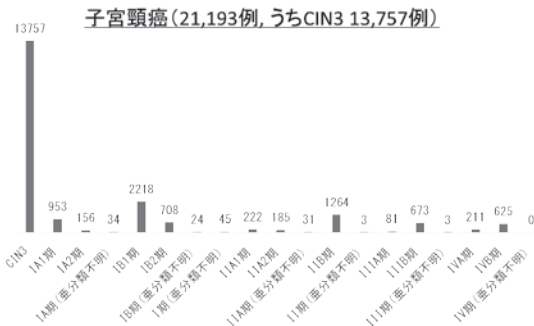
1. 常置的事業

婦人科悪性腫瘍登録事業として、平成26年度より東北大学病院臨床研究推進センターと契約し、今年度に以下の項目を遂行した。

- (1) 2015年の婦人科悪性腫瘍(子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍)症例のオンライン登録事業を行った。
- (2) 加盟423機関より2013年1月1日から12月31日までに治療を開始した子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性, 境界悪性)症例を集計・解析し、疑義照会を行った上で、日産婦誌ならびに婦人科腫瘍委員会ホームページにて、2013年患者年報として報告した(日産婦誌 2015: 67; 1872-1916)。

また、加盟411機関より2014年1月1日から12月31日までに治療を開始した子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性, 境界悪性)症例を同様に集計・解析し、2014年患者年報として報告した(日産婦誌 2016: 68; 1117-1160)。

以下に2014年患者年報の抜粋を示す。

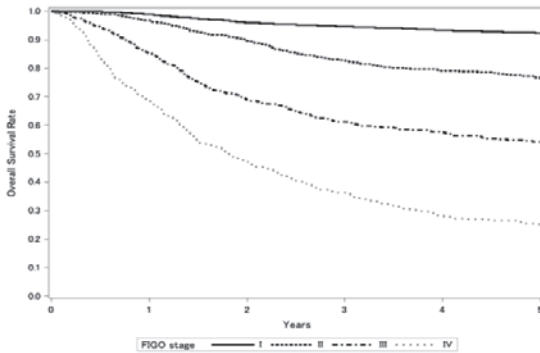


- (3) 2008年に治療を開始した子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性, 境界悪性)症例の予後情報を集計・解析し、疑義照会を行ったうえで、日産婦誌ならびに婦人科腫瘍委員会ホームページにて、第56回治療年報(2008年治療開始症例)として報告した(日産婦誌 2015: 67; 1803-1871)

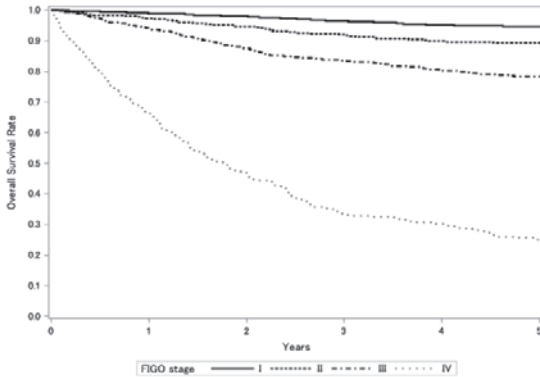
また、2009年に治療を開始した子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣悪性・境界悪性症例の予後情報を同様に集計・解析し、第57回治療年報(2009年治療開始症例)として報告した(日産婦誌 2016: 68; 1161-1231)。

以下に第57回治療年報の抜粋を示す。

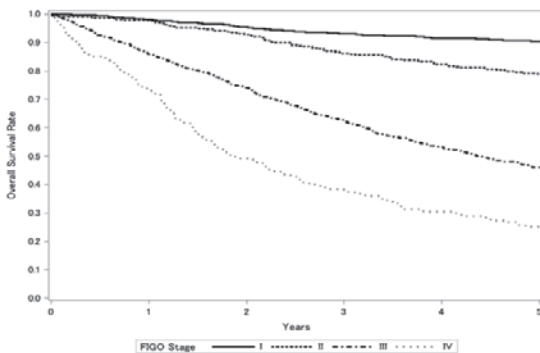
子宮頸癌



子宮体癌



卵巣癌

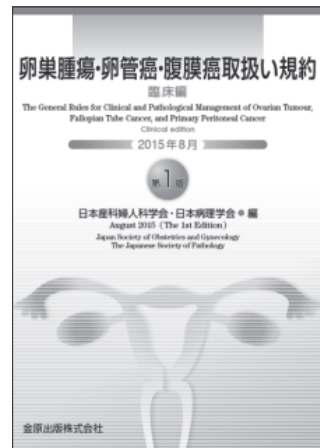


- (4) 第56回治療年報(2008年治療開始症例)の英語版をJournal of Obstetrics and Gynaecology Research(JOGR)誌に受領され掲載予定である。

- (5) 2015年治療開始症例の子宮頸癌・子宮体癌・卵巣腫瘍の登録より、卵巣腫瘍の手術進行期分類の改訂、子宮頸癌・子宮体癌の治療法に関する登録要項の変更を行うことを踏まえて、オンライン登録画面(UMIN)の整備を行った。尚、卵管癌ならびに原発性腹膜癌の登録も併せて開始した。
- (6) 外陰癌、陰癌、子宮肉腫、子宮腺肉腫、絨毛性疾患の稀少がんの登録要綱および登録システムを作成し、2016年1月より登録を開始した。
- (6) 婦人科腫瘍委員会ホームページにて、1999年～2012年の絨毛性疾患地域登録成績を報告した。また、日産婦誌に2011～2013年の絨毛性疾患地域登録成績を報告した(日産婦誌 2015:67;1581-1586, 日産婦誌 2016:68;1232-1235)。

2. 親委員会

- (1) 臨床研究管理・審査委員会からの諮問を受けて、婦人科悪性腫瘍登録事業データベース使用申請の審査を行った。
- (2) 卵巣癌・卵管癌・腹膜癌のFIGO手術進行期分類およびWHO組織分類の改訂が行われたことに伴い、卵巣腫瘍取扱い規約改訂小委員会を立ち上げ、臨床編が理事会で承認され、刊行した(卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約臨床編第1版。日本産科婦人科学会・日本病理学会、金原出版、2015)。



卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌
取扱い規約臨床編第1版
(金原出版)

引き続き、「卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約病理編第1版病理編」を作成作業中である。

- (3) 子宮頸癌ならびに子宮体癌の WHO 組織分類の改訂に伴い、各々の取扱い規約病理編を改訂することが理事会で承認されたことを受けて、日本病理学会へ委員の推薦を依頼し、同学会から10名の委員の推薦を受けた。これに伴い、本学会の委員とで子宮頸癌取扱い規約改訂小委員会ならびに子宮体癌取扱い規約改訂小委員会を組織した。現在、改訂作業中である。
- (4) 「本邦における子宮内膜症の癌化の頻度と予防に関する疫学研究」について、継続して検討を行った。
- (5) 「婦人科がん治療ガイドライン導入によるがん治療の均霑化の検証—治療レベルの施設間差—日本婦人科腫瘍学会専門医制度(指定修練施設認定)の検証に関する研究(研究責任者：三上幹男教授)」を臨床研究として承認し、本委員会の中で検討を開始した。
- (6) 「婦人科腫瘍登録データを用いた本邦の婦人科悪性腫瘍の進行期分類、組織分類と予後の解析(研究責任者：青木大輔)」を臨床研究として承認し、本委員会の中で検討を開始した。

3. 小委員会事業

継続の2小委員会に加え、常置的事业に基づく新規の2小委員会、さらに性成熟期女性に発症する4疾患の発症動向と臨床的対応の全国の実態の調査を目的とする新たな4小委員会を設置した。

- (1) 遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)の啓発および取り扱い小委員会(継続)
委員長 鈴木 直
委員 井篁一彦, 岩瀬春子, 牛嶋公生,
平沢 晃
- HBOC に対する産婦人科としての対応を協議し、リスク低減卵巣卵管摘出術(Risk Reducing Salpingo-Oophorectomy: RRSO)や卵巣のサーベイランス、婦人科腫瘍における HBOC の拾い上げなどに関する実態調査を行い、その適応や方法等を検討した。また、BRCA1 または BRCA2(BRCA1/2) 遺伝子変異保持者に対する RRSO に関する考え方(案)を作成し、理事会に報告した。
- (2) HPV ワクチンの効果と安全性に関する調査小委員会(継続)

委員長 井篁一彦

委員 齋藤俊章, 鈴木 直, 万代昌紀,
宮城悦子

HPV ワクチンの効果や安全性に対する情報を引き続き収集、分析を行っている。日本医師会、日本医学会の呼びかけにより発刊された「HPV ワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き」を高く評価する声明を発表した。また、HPV ワクチンに関する本学会の声明を発表し、本会ホームページに掲載するとともに、その英語版を本会ホームページの英語ページにも掲載した。さらに英語版については、JOGR 誌12月号に掲載し、国際的にも本学会の声明を発信した。

- (3) 婦人科悪性腫瘍登録システム強化に関する小委員会(新規)

委員長 永瀬 智

委員 青木大輔, 井篁一彦, 蜂須賀徹,
山上 亘

2016年1月より新規登録となった稀な婦人科腫瘍(外陰癌、陰癌、子宮肉腫、子宮腺肉腫、絨毛性疾患)の円滑な登録のための準備を行った。また、婦人科腫瘍登録の登録データの品質管理を目指して、疑義照会項目の検討や再修正の徹底を行った。さらに、「婦人科腫瘍登録データを用いた本邦の婦人科悪性腫瘍の進行期分類、組織分類と予後の解析(研究責任者：青木大輔教授)」を臨床研究として承認し、本委員会の中で検討を開始した。

- (4) 婦人科がん取扱い規約改訂小委員会(新規)

委員長 杉山 徹

委員 榎本隆之, 岡本愛光, 田代浩徳,
馬場 長

「卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約病理編第1版」の最終原稿について改訂小委員会での検討を終了した。さらに、「子宮頸癌取扱い規約病理編第1版」ならびに「子宮体癌取扱い規約病理編 第1版」の作成作業を開始した。

- (5) 抗 NMDA 受容体抗体脳炎の全国調査に関する小委員会(新規)

委員長 田代浩徳

委員 坂口 勲, 相田賢司, 万代昌紀,
宮本新吾

若年者の卵巣奇形腫に併発する抗 NMDA 受容体抗

体脳炎の臨床的調査を、婦人科悪性腫瘍登録施設を対象に行う準備を進めている。

(6) 子宮頸部円錐切除術の実態調査に関する小委員会(新規)

委員長 三上幹男

委員 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬 智,
横山正俊

子宮頸部のCINならびに初期癌に対して広く行われている子宮頸部円錐切除術の症例について、婦人科悪性腫瘍登録施設を対象に、対象症例、年齢、手術方法等の臨床的な実態調査を行う準備を進めている。

(7) 遠隔再発・遠隔転移を来した子宮平滑筋腫瘍の臨床病理学的検討に関する小委員会(新規)

委員長 牛嶋公生

委員 小林裕明, 田代浩徳, 三上幹男,

宮本新吾

子宮筋腫として臨床的に対応され、再発・遠隔転移を来した症例について、婦人科悪性腫瘍登録施設を対象に、臨床病理学的な調査を行う準備を進めている。

(8) 稀少部位子宮内膜症の臓器分布と悪性化の実態調査に関する小委員会(新規)

委員長 万代昌紀

委員 榎本隆之, 大須賀穰, 谷口文紀,
本田律生

卵巣、骨盤腹膜、子宮靱帯以外に発症する子宮内膜症の発症頻度とその悪性化例の調査を、厚生労働省難治性疾患等政策研究事業「難治性稀少子宮内膜症の集学的治療のための分類・診断・治療ガイドライン作成(研究代表者:大須賀 穰教授)」と共同で行う準備を進めている。